

日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

*主な記事：理事長ご挨拶、実践報告、新入会員の抱負、各委員会活動紹介、第18回大会ご案内等
ニューズレター 2024 No.1

2024年6月1日 JPTA事務局 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1 尚綱学院大学 東研究室内
メールアドレス info@j-pta.net

多くの新入会員をお迎えし2024年度がスタートいたしました。今回は昨年第17回大会以降に新入会員となられた方々の抱負について掲載しています。第18回大会は東京家政大学（東京）で開催されます。これからも皆様とともにパペットセラピーの限らない可能性を追及していきたいと思います（編集長：中下富子）。

日本パペットセラピー学会理事長としての抱負

理事長 東 義也（ヒガシ ヨシヤ）

理事長になって1年経ちました。うれしいことが二つありました。

一つ目は、理事の皆さんに支えられたこと、学会大会も総会もそして講演会や講座などみなさんのご協力が無事に終えられたことです。

もう一つは、新しく入会された方が2023年4月以降20人もおられたことです。これで全学会員83名になりました。入会してよかったと言っただけのよう努力したいです。ぜひ要望等遠慮なくお聞かせください。理事会で取り上げ検討してまいります。

当学会の目的は、「日本における腹話術又は人形術（パペッターリー）の医療、保育、特別支援教育、心理療法、福祉等への新たな取り組みとして、研究及び研究者間の学術的提携を図ること」です（学会会則第3条）。皆さんとこの目的達成のために一歩ずつでも一緒に頑張っていきたいです。

ぜひご自身の活動や研究をおまとめになって、共有させていただけるよう心から願っております。



実践報告「ウクライナからの避難児の支援としてのパペットセラピー」

理事 東海林照子（トウカイリン テルコ）

東京臨床心理士会からの依頼で、2023年8月と2024年1月に「ウクライナからの避難児の支援としてのパペットセラピー」ワークショップを行いました。参加者は、ウクライナと日本の親子です。午前は、楽しくパペット作り、午後は、パペットシアターをしました。台本の内容は、臨床心理士の方、ウクライナ人支援員の方との打ち合わせを重ね、「新しい学校で友達がいなくて寂しい」ということをテーマに作りました。

子どもたちは、パペットのアクションに共感してくれたようです。

その後、輪になり自分の作ったパペットを紹介し、工夫したところをみんなに伝え、パペットと一緒にダンスをしてワークショップを終えました。

その後、家族の方に、パペットの使い方を説明したところ、とても関心を持っていただけたように思います。言語は違いますが、パペットを片手にコミュニケーションを取ることができ、とても有意義な時間を過ごせました。





新入会員としての抱負

鈴木 和子(スズキ カズコ)

宮城県で高校の相談員と、行政の障がい支援の仕事をしています。全て手作りの大型人形劇団の座長としてボランティア活動も行っています。もともとは保育士でしたので、パペットが代弁者や心の拠り所となり、障がいや生き辛さを抱えた子のケアに寄与することは実感していました。入会後は、学びの中からパペットセラピーの心理療法を深め、その有用性を分析研究していきたいです。そして、福祉、教育、精神保健、医療などの幅広い分野で実践し、パペットセラピーの心理的効果を広め、魅力を共有していきたいと思っています。



坂井 麻美子(サカイ マミコ)

教育関係の仕事を経験した後に、現在、福祉関係で働いています。多くの人との出会いをもらっている日常ですが、もしここにパペットもいたら?と思う事が増えてきて、思いきって入会させて頂きました。以前、Zoomで一度お邪魔したことがあり、その時にとっても楽しかったこともあります。ドールセラピーの中では、パペットやAIのコミュニケーションロボット等も含めて学んでいきたいのですが、他でも、パペットを相棒に、パペットと一緒にならと自分を勇気づけ、色々な経験を積んでいけたらと思います。よろしくお願いいたします。



吉田 浩一(ヨシダ コウチイ)

九州女子短期大学の吉田浩一です。「幼児と言葉」「保育内容・言葉」の講義を担当しており、パペットの活用を考えております。パペット活用の実践を学ぶことができる学会が日本パペットセラピー学会ということを知り、入会させていただきました。パペットを講義にもっていくとなんだか全体的な雰囲気や和みます。保育実践でのパペット活用について、研究をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

小堀 伸子(コボリ ノブコ)

以前テレビで見てから「私もパペットをやってみたい」とずっと思っていた念願がかないませんでした。私はキリスト教の教会員ですが、教会も少子化で出席する子どもが減っています。パペットの力を借りて恵みの時を持ってないものかと思っています。毎月第3日曜日の早朝、教会でケンちゃんと聖書のお話を楽しくできるように東海林先生にご指導をいただくことが私にとって大きな喜びです。未熟であることを痛感させられますが心身共に健康であることを心掛けようと想います。



長岡 景子(ナガオカ ケイコ)

母を亡くした頃、心配した娘から贈られたのが、口・眼・眉の動く「からくりタイプ」のハードパペットでした。子どもの頃から無類の人形好きだった私は、その可愛い顔を見ているだけでも癒されたのですが、手を動かしているうちに、クルクルと変わる表情に心惹き込まれ、いつのまにか腹話術の本を大変興味深く読むようになっていました。「集中力が高まったんだね。それに生き活きしてる」と家族から背中を押され、以前から参加していた体操補助(運動習慣奨励)を行うボランティア活動の会へもパペットを連れていき、クイズや大喜利などを皆さんと楽しむようになりました。最初は表情の硬かった方も、腹話術で接した後は笑顔になっていくのを目の当たりにし、パペットセラピーの「癒す力」を再認識させられました。これからは、スマイリー千葉先生の教室での教えを活かしながら、他のボランティア活動にも積極的に取り組んでいこうと考えております。

このたびは、日本パペットセラピー学会に入会させていただき、ありがとうございます。自身と周囲の方々を元気にしてくれるパペットセラピーに出会え、とても嬉しく思います。皆様、どうぞご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。



各委員会の活動紹介と抱負



編集委員会

中下富子（ナカシタ トミコ）

編集委員会は日本パペットセラピー学会機関誌を年1回発行しています。2024年4月1日に機関誌第17巻を発行しましたので、ホームページ上で会員の皆様それぞれのパスワードでご覧ください（パスワードがご不明の場合には事務局にお問い合わせください）。第17巻では「ダニエラ氏来日記念（東京・群馬・宮城・神奈川会場）」特集を掲載しています。また、ダニエラ氏が考案されたシャロームパペットセラピーについて「総説」に掲載していますので、併せてご覧いただきたいと思います。

また、年2回6月、12月にニューズレターを発行しホームページ上に掲載しています。このニューズレターはどなたでもご覧になれます。本学会の大会開催情報や、会員の皆様の活動、パペットセラピー研修会等、学会の活動状況等知ることができます。これからも機関誌やニューズレターを皆様に楽しんでご覧いただけるよう、編集委員会メンバー一丸となってパペットセラピーにかかわる様々な情報を提供していく所存です。

研修委員会

千葉 俊一（チバ シュンイチ）



2024年度になり、委員会の中では今年もいろいろな活動提案がなされました。

講師を招いての公演企画や被災地へのボランティア活動なども意見として取り上げられました。その中で今年は、会員同士のつながり、交わりをより深いものにするための集いを企画することになりました。学術団体として、研究、実践報告等の発表も大切ですが、本学会ならではのお互いの会員が、ワイワイガヤガヤしながら談笑して、学びあう場も必要ではないかと考え、企画しました。

本年7月21日（日）14時から15時までの一時間ですが、楽しく学びあえる場を作ればとの集いです。たくさんの方の会員の方にご参加いただければと思います。そうそう、自分おひとりでの参加はもったいないので、ぜひおそばにパペットも出演させてくださいね。委員長の千葉もパペットセラピーカフェ店長として頑張ります。研修会の詳細はホームページをご覧ください。



倫理委員会

近喰 ふじ子（コンジキ フジコ）

本学会では人間を対象とする医学研究の倫理的原則であるヘルシンキ宣言に基づいて倫理委員章活動を進めています。ヘルシンキ宣言の目的と構成は以下の通りです。

「目的は予防・診断ならびに治療法改善などの向上にあり、人間の健康を向上させ・守るという（医師の）責務と達成にある。また、被験者の生命・健康・プライバシーや尊厳を守り、科学的原則・倫理的配慮などに留意し、対象児・者への充分なる説明と依存ならびに、強制のない関係でのインフォームド・コンセントが必要であると同時に要求される。人を対象とする（医学的）倫理的原則で、1946年ヘルシンキにおける世界医師会で採択された。1975年以降、7回を超える世界医師会で改定・修正が行われている。2008年ソウルで行われた世界医師会では、プラセボと被験者の人権に関する事の項目の修正も行われた。「医学のための基本原則」序言（1～9）基本原則（10～27）メディカル・ケアと結びついた医学研究のための追加原則（28～32）合計32項目で構成された。」

広報委員会

高村 豊（タカムラ ユタカ）

5月7日（火）2024年度最初の委員会を開催しました。学会パンフレットの作成について検討しました。理事の中でデザイン力のある方の協力を得て進めていきたいと考えています。次の委員会は7月末に開催する予定です。また、ホームページの英語版の作成も業者に依頼をしています。

今後、学会で開催予定の催し物について、{こくちーず} や {Peatix} の活用で参加者募集を考えていきたいと思っています。パペットセラピーに関しての活動助成金を助成してもらえらる団体、機関をリサーチして学会の活動をより活性化していきたいと思っています。

パペットセラピスト認定委員会

東 義也 (ヒガシ ヨシヤ)

本学会には、パペットセラピスト認定制度というものがあります。「パペットセラピストを養成し、対象となる人々の心身の改善をもたらすことに寄与すること」が目的です(認定制度に関する規則第1条)。

パペットセラピストとは、専門分野を問わずパペットを介在させたパペットセラピーを行うのに必要な技能と知識を有し、臨床的能力を備えた当学会の会員ということになります。現在 25 名の方が登録されております。認定のための審査委員会というものがあまして、現在は理事長の私とお二人の副理事長で構成されており、毎年6月に開いております。認定条件についてはホームページを見ていただくとして、ぜひ認定申請を行っていただきたい、またはそれに向かって準備・実践していただきたいと思っております。



日本にパペットセラピーの存在と価値が認知されていくためにもぜひご検討くださいますようお願いいたします。

2024 年度 日本パペットセラピー学会第 18 回大会のご案内

大会長 近喰 ふじ子 (コンジキ フジコ)

テーマ：子どものこころを育てるためのパペット教育を考える
～明日からの第一歩を踏み出すために～



日 時：2024 年 9 月 29 日 (日) 9 時 30 分～17 時

会 場：東京家政大学 120 周年記念会館 2 階 東京都板橋区加賀 1 丁目 18-1

プログラム：大会長講演、招待講演、一般演題、シンポジウム「いじめ防止のためのパペット教育」
いじめ対策「パペットシアター」

第 18 回大会への紹介と挑戦に向けて「日本パペットセラピー第 18 回大会」の会長の任を受け、楽しみ 80%、不安 20%を抱え、今日に至っています。

今回の大会長は 2 回目となります。1 回目は東京家政大学・大学院での教員在籍中にお引き受けし、ゼミ生や教職員の方々のご協力により、学会運営を成功へと導くことができたと実感しています。

第 18 回大会は、参加される皆様に自分のセラピーへの利用に役立てられることを期待し、実りある一日が喜びに繋がり、私もやってみようかな？との思いが育つことを期待しております。

そのためにも、是非とも大会にご参加いただき、皆様の活発な意見や考えを交換し合い、明日にはすぐにでも活用・応用ができるまでになっていることを願っております。



事務局だより

私の研究室には過去の機関誌や学会の代表的著作『パペットセラピー入門』(3,500 円)の在庫がまだ残っております。みなさんの地域の図書館などに入れていただけるようご協力くださるとうれしいです。

当学会に地域活動助成制度のあることはご存知でしょうか。会員のパペットセラピーに関する地域活動に対して助成金を支給する制度です。毎年 10 件分の予算(10 万円)を取っておりますが、例年 2～3 件にとどまっています。研究会の会場費やワークショップの材料費などにお使ください。

ぜひ入会間もない会員もご利用くださいますように。報告義務は生じますが、パペットセラピーによる社会貢献、そして学会の発展のためにもよろしく願いいたします。

(東 義也)